

新年のご挨拶



支部長 野中和徳

新年明けましておめでとうございます。

一昨年 6 月の第 54 回東京無線支部定期総会（書面）にて支部長を拝命した野中和徳です。新型コロナウイルスにより、会員の皆様とリアルにお会いすることができずにおりましたが、昨年 6 月、4 年ぶりに集合形式での定期総会を開催することができ、その後の懇親会でも皆様と楽しく懇談させていただきました。この総会及び懇親会の開催にあたり、まず驚いたのは、新型コロナの影響であまりご参加いただけないのではと、私や役員一同心配していたのですが、従来と遜色のない 100 名を超えるご参加がいただけたことでした。さらに遠隔地からのご参加もいただき、久しぶりにお会いできた多くの会員の皆様と本当に楽しく歓談させていただきました。皆様とお話ししてみても、やはり会員の皆様それぞれが、東京無線支部の集りを楽しみにしていること、リアルに集まって語り合いたいと感じていらっしゃる事が、いたいほど実感することができました。



また、新型コロナの影響もあって、各支部とも参加者が伸び悩んでいる中での東京無線支部の盛況ぶりは、無線の仲間の絆の強さを実感させるものとして、本当にうれしく感じました。さらに、昨年 10 月には各地区の懇談会も盛況のうちに開催されました。私も東京地区、神奈川地区の懇談会に参加させていただきましたが、従前どおりの楽しい集いとなりリアルにお会いできる良さを実感した次第です。

まだまだ予断を許しませんが、新型コロナも 5 類に移行され、街中でもマスクをする方がめっきり減ってきました。東京無線支部としても感染対策に留意しつつ、サークル活動などについては、出来る限りリアルな活動を再開していきたいと考えております。一方、コロナ禍の環境でしっかり手に入れたりリモート会議などの手法については幹事会等の活動の中で活かすこととし、効率的な支部活動に努めていきたいと思っております。

昨年は、一昨年来のロシアによるウクライナ侵攻や、それに対する欧米諸国の制裁措置、経済情勢の悪化、インフレの進行、急激な円安などがあり、現在も解決の糸口が見いだせないままの状況が続いております。さらに、夏にかけては異常な高温続き、水害の多発など、心の休まる暇のない環境が続きました。加えて、パレスチナ、イスラエル紛争の激化など、予断を許さない状況は変わりません。

なんとかコロナ禍も落ち着いてきたなか、こんな時期だからこそ無線の仲間として集い、語り合い、力づけ合う場としての東京無線支部の役割が大切さを増していると思っております。コロナ禍の期間に十分に行えなかった各種サークル活動の活性化、会員拡大への積極的な取り組み等について、私や支部役員は、微力ながら力をつくしていきたいと考えております。ぜひ会員の皆様にもご協力のほど、よろしく願いいたします。



最後になりますが、今年一年の会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。